

# 新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



2019 年春号



## 基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

## 基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます。



## contents

院長あいさつ

新任のあいさつ

診療科のご紹介

・消化器内科 ・呼吸器内科

地域医療連携講演会の開催報告

地域連携室からのお知らせ

平成 31 年 5 月外来診療予定表

## 院長あいさつ

新元号『令和』を迎え、少子・高齢社会でも都道府県がん診療連携拠点病院としての役割をさらに果たしていきます。

新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭



平素より当院との病診連携に際して多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

がんは遺伝子の病気とも言われます。100種類以上の遺伝子を一度に網羅的に解析することで、より精緻に最適な薬物治療につながる可能性があります。遺伝子を網羅的に解析するパネル検査が昨年承認されました。遺伝子異常を標的とした薬剤が見つかるのは、現時点では10%程度であり、一方で、想定していなかった別の遺伝性の病気に関連する変異が見つかることもあります。しかし、正しい薬を、正しい患者さんに、より速やかに届けるため、がんゲノム医療センターの体制を整えたいと思います。

がん相談支援センターと緩和ケア病棟により、がん患者・家族を支える体制を充実させます。当院は2019年1月1日付けで国立がん研究センターより認定がん相談支援センターに選定されました。ハローワーク新潟の就職支援に関する出張相談と新潟産業保健総合支援センターの両立支援促進員によるがん治療と職業生活の両立支援にも取り組んでいます。

2019年2月1日に緩和ケア病棟が稼働しました。放射線治療・神経ブロックを併用した鎮痛や、精神科の受診を要する抑うつなどまでをカバーする高次緩和ケアを実践し、また、医療者の育成、緩和ケアの臨床研究を目標としています。

医療安全管理部門はインシデント、アクシデントの報告のほかに、全ての死亡事例の報告を義務化し、高難度新規医療技術等の導入のプロセスを明確にして、医療安全をさらに推進します。

2017年の当院のがん患者の平均年齢は胃がん69歳、肝癌74歳、肺がん71歳、乳がん59歳、大腸がん67歳でした。高齢化により多くの慢性疾患、精神心理社会的な問題など、総合的な診療と介護の必要性が増大します。例えば高齢者では男性の10.7%、女性の6.4%に心臓病を合併します。2018年6月からは腫瘍循環器科の診療を開始しています。

がん医療は治す医療から、治し、支え、寄り添う医療へと医療者は意識を変える時代を迎えています。がんの治療が終わった後も、治療前と同じ状態に戻れないことも少なくありません。ライフステージやがんの特性に注目し、その人らしさを大切にできるがん医療を提供したいと思います。

先生方のご指導とご支援を今後ともお願い申し上げます。



## 新任のあいさつ

## 副院長 田中 洋史

4月から副院長を拝命いたしました、内科（呼吸器）の田中洋史（たなかひろし）です。



日頃から、地域の皆さま、連携施設関係者の皆さまには患者さんのご紹介や医療連携等でたいへんお世話になっており、改めて御礼申し上げます。

さて、がん診療は、医療技術や薬剤の開発・導入により大きく変貌・進化しています。特に近年は、ゲノム医療、プレシジョンメディシン（高精度医療）といった言葉に代表されるような、患者さんの遺伝情報等に基づいた個別化医療が進化しています。また、がん免疫を活性化する薬剤の導入が多くの癌腫で進み、従来の抗がん剤治療とは印象の異なる治療効果が認められています。これらによって、私の専門である肺がんの診療においても、お仕事や日常の生活を維持しながら、外来通院治療を継続される方が増えています。

一方では、患者さんの高齢化が進み、複数の合併症や、様々な課題を持っておられるケースも増加しています。当院では医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、検査技師、リハビリ技師、栄養士等、多くのスタッフが協働し、それぞれの患者さんに最適な“臨床的”個別化治療を実践できるように頑張っておりますが、至らぬ点、足りない点など、まだまだ多いと存じます。地域の皆さま、連携施設の皆さまのご指導、ご援助なくして当院の診療は成立いたしません。

地域のがん診療の一つの要として、多くの患者さんが安心して診療を受けながら、ご自身の生活やお仕事を維持していただけるように、地域の皆さまから求められている当院の役割を常に考え、応えていけるように今後も頑張っております。今後ともご指導を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。

## 事務長 松田 英世



日頃より地域の医療機関をはじめ多くの関係機関の皆様には大変お世話になっております。心より感謝を申し上げます。この度、事務長に着任しました松田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

県立がんセンター新潟病院の職員の1人として、当病院のミッションである「県民が安心して暮らせるための医療の提供」を目指して、少しでもお役に立てるよう努めてまいります。

可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる、地域包括ケアシステムづくりが各地域で進められています。そのためには地域の病院、診療所を始め保健・介護施設等の関係機関の繋がりが大変重要になってきております。

当院ではがん治療を受けながら地域で生活する患者さんが多くいらっしゃいます。患者さんが最後まで住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように、当院と関係機関の皆様との連携強化を一層図りながら、患者さんに対して最善のがん医療を提供することを目指しております。

今後とも、地域の病院、診療所などの関係機関の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

医師	卒業年	主な資格
小林正明	1988年	日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科専門医
佐々木俊哉	1995年	日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医
塩路和彦	1996年	日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本超音波医学会超音波専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本胆道学会指導医
栗田 聡	1997年	日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医
青柳智也	2002年	
盛田景介	2011年	日本内科学会認定医
戸田 遼	2018年	研修医



#### 【当科の特徴】

1. 膵臓がんに対するEUS-FNA検査数が県内随一
2. 食道がん、胃がん、大腸がんに対する内視鏡治療件数が多い
3. 胃がん、大腸がんのがん精密検診（二次検診）を積極的に行っている
4. 進行食道がんの化学放射線治療件数が多い

1. 消化器がんの中で、膵臓がんは最も難治性であり、迅速で正確な診断が求められます。地域連携・相談支援センターを介して外来予約をいただくと、直ちに診療情報を確認し、病状に応じて、可能な限り短期間での外来受診や入院を手配しています。
  2. 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は、早期の消化管がんに対する標準治療です。当科における2018年の治療件数は、咽頭2例、食道63例、胃205例、大腸37例であり、増加傾向です。術前診断や切除手技の難易度が高く敬遠される症例でも、しっかりと対応しています。
  3. 胃がんや大腸がんの精密検査のため、最新の内視鏡機器を取り揃えています。ピロリ菌の治療後に発見された胃がんの診断は困難な場合がありますが、当科では豊富な経験をもとに正確な診断を行っています。大腸内視鏡の挿入が難しい場合は、細径の小腸用スコープを使用して検査を行っています。大腸内視鏡検査を希望されない方には、大腸CTやカプセル内視鏡などの選択肢もあります。
  4. 進行期で発見された消化器がんに対しても、本人や家族の気持ちに寄り添い、他の診療科と協力しながら、最も適切な治療を行っています。日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の参加施設であり、臨床研究にも積極的に取り組んでいます。
- 消化器がんの患者さんに関して、遠慮なく、ご相談、ご紹介いただきたいと思います。

# 診療科のご紹介

## ～呼吸器内科～

医師	卒業年	主な資格
田中洋史	1991年	日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
三浦理	2000年	日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
小山建一	2002年	日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
梶原大季	2004年	日本内科学会認定医、感染管理医師
馬場順子	2004年	日本内科学会認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医

### 【呼吸器内科のご紹介】

呼吸器内科では肺がんを中心とした胸部疾患の診療を担当しています。肺がんは従来から予後不良な難治性がんの代表格でしたが、近年、分子標的治療薬や免疫チェックポイント治療薬の導入によりその治療内容は大きく進化し、予後は改善しつつあります。当科では、これらの新規薬剤、治療法に関する臨床試験や治験に積極的に参画し、最新の治療法の開発に寄与しています。

一方では、多様な背景を有する個々の患者さんに対して、どのような診療が最適なのか日々議論を重ねています。毎年約200名の新規進行期肺がん患者さんの治療を開始しており、木曜日の14時には医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ技師、MSW等が参集して、入院症例について検討し、検査結果だけに依らない“臨床的な”個別化治療の実現を目指しています。また、毎週水曜日の16時から開催される、呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の合同検討会はこれまでに2030回を数え、40年以上にわたって診療科横断的な症例検討を継続しています。

ご紹介いただいた患者さんについては、各種検査を駆使して速やかに診断を進め、可能な限り3週間以内に診療方針のご提示ができることを目指しています。

地域の皆様、連携施設の皆様からのご指導をいただきながら、スタッフ一同さらに成長していきたいと考えております。引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますように何卒よろしくお願いいたします。

# 地域医療連携講演会の開催報告

平成31年3月7日（木）当院講堂において、平成30年度地域医療連携講演会を開催致しました。

平素お世話になっている地域の医療機関の方々との連携を目的に毎年3月に開催しております。

平日のお忙しい時間帯にも関わらず、医師をはじめ、医療ソーシャルワーカー、保健師、看護師等の医療関係者約50名という多くの皆様からご参加いただきました。

講演会は、昨年度退職されました本間慶一副院長と成澤林太郎臨床部長より、これまで当院で取り組まれたことについて講演いただきました。また、当院植本医療ソーシャルワーカーより最近話題となっている就労・両立支援についての講演があり、新潟産業保健総合支援センターの木村明子さんにもお話しいただきました。

ご参加頂きました皆様ありがとうございました。今後とも皆様の意見をいただきながら、来年度も地域医療連携講演会を開催して参りたいと考えております。

## 【当日プログラム】

1. 「胃がん健診の現状と将来展望」について  
成澤林太郎 臨床部長
2. 「当院病理の現状・過去・未来」  
本間慶一 副院長
3. 「就労・両立支援について」  
地域連携・相談支援センター 医療ソーシャルワーカー 植本洋平  
新潟産業保健総合支援センター 労働衛生専門職 木村明子
4. 「地域連携・相談支援センターの活動報告」  
地域連携・相談支援センター 副センター長 田村恵美子



## 地域連携室からのお知らせ

### 地域連携・相談支援センター 副センター長 櫻井 圭美

4月1日より地域連携・相談支援センター副センター長に着任いたしました櫻井です。皆様には平素より当院との病診連携に際して多大なるご協力を賜り心より感謝申し上げます。

地域包括ケア時代を迎え、がん治療を受けながら地域で生活する患者さんが多くいらっしゃいます。また、超高齢化社会に向かう今後は、さらに高齢がん患者さんが増加していくこととなります。当院の地域連携・相談支援センターでは、患者さん一人ひとりを大切に、患者さんご家族に寄り添いながら、就労支援を含めたがん相談支援業務、退院支援調整業務等に一層力を入れ、地域の医療、介護や関係機関の皆様とさらなる連携を強化し、患者さんご家族へ提供するケアの質の向上を目指してまいります。

当院は平成31年1月1日に国立がん研究センター認定がん相談支援センターの認定を取得いたしました。専任の専門相談員を2名配置し、一層の相談支援業務の充実を図っていく所存でございます。地域連携・相談支援センターは、患者さんの病院受診前から退院後の先まで深くかかわります。当センター職員一丸となり、信頼される病院を目指して努力してまいります。

今後とも地域の医療機関、関係者様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



地域連携・相談支援センタースタッフ



病診連携スタッフ



新潟県立がんセンター新潟病院 令和元年5月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 (金曜日は新潟大学より)	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 栗原 太郎	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓朗	D 今井 洋介
	501診		F 谷 長行	F 谷 長行		F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 小林 正明	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 田中 洋史	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 盛田 景介	A 佐々木 俊哉	A 塩路 和彦	C 須田 将吉(午前) C 尾崎 和幸(午後)
	201診	B 呼吸器内科医師		B 梶原 大季		B 馬場 順子
	新患 (医師2名 隔週交替) ↓*参照	F 谷 長行	B 小山 建一 D 石黒 卓朗	B 田中 洋史 D 今井 洋介	C 大倉 裕二 D 廣瀬 貴之	A 塩路 和彦 D 張 高明
		A 佐々木 俊哉 B 三浦 理	A 青柳 智也 D 栗原 太郎	A 盛田 景介 E 大山 泰郎	A 小林 正明 B 馬場 順子	A 栗田 聡 B 梶原 大季
	*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医については内科外来にお問い合わせください。					
A: 消化器 B: 呼吸器 C: 循環器 D: 血液 E: 内分泌 F: 糖尿病						
小児科	1 診	小川 淳	渡辺 輝浩	阿部 咲子	小川 淳	渡辺 輝浩
	2 診		第3週専門外来(14:00~)	細貝亮介	専門外来(PM)	阿部 咲子
*新患は紹介状が必要です。						
乳腺外科 消化器外科	1 診	長谷川 美樹(乳腺)	藪崎 裕(胃)	野村 達也(肝胆臓)	中川 悟(食道・胃)	丸山 聡(大腸)
	2 診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	瀧井 康公(大腸)	番場 竹生(食道・胃)	野上 仁(大腸)
	3 診	松本 瑛生(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	森山雅人 (腫瘍内科)午後	
	4 診		田中 亮	高野 可赴(肝胆臓)	茂木 大輔	真鍋/宮澤
	予防センター-乳腺		金子 耕司 神林 智寿子(午前)	長谷川 美樹	神林 智寿子	神林 智寿子
*乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器 外科	1 診	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英 (~AM10時まで)	青木 正 (~AM10時まで)	吉谷克雄/青木正 (AM10時~)
	2 診		岡田 英			岡田 英
整形外科	新患	骨転移外来 島野/山岸 [隔週交替]	島野 宏史	小林 宏人	山岸 哲郎	山田 政彦
	再来	小林 宏人	山岸 哲郎		島野 宏史	小林 宏人
*完全紹介制です。						
脳神経内科 (新潟大学より)		齋藤奈つみ		二宮 格		
精神科 (午前のみ)			小林 真理		小林 真理	小林 真理
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。完全紹介制・完全予約制です。					
脳神経外科	1 診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2 診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3 診					宇塚 岳夫 (4週の午後)
婦人科	1 診	生野 寿史	菊池 朗(午前)	菊池 朗	生野 寿史 遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・山口)	吉田 邦彦(午前のみ)
	2 診	吉田 邦彦 (午前のみ)	高橋 宏太郎	吉田 邦彦		高橋 宏太郎
	3 診	予約のみ	笹川 基(午前)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野)	菊池 朗(予約のみ)	
皮膚科	1 診 (主に新患)	高塚 純子	勝見 達也	竹之内 辰也	森 修一	高塚(1,3,5週) 勝見(2,4週)
	2 診 (主に再来)	勝見 達也	竹之内 辰也	勝見(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3 診	森 修一	森 修一	森 修一	勝見 達也	森 修一
泌尿器科	1 診	谷川 俊貴	村田 雅樹	齋藤 俊弘	齋藤 俊弘	谷川 俊貴
	2 診	小林 和博	山口 峻介	小林 和博	山口 峻介	村田 雅樹
*新患は紹介状が必要です。						
眼科	1 診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2 診			佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)
頭頸部外科	1 診	佐藤 雄一郎(再来)	富樫 孝文(新患)	予約のみ	佐藤 雄一郎(新患)	高橋 優人(新患AM)
	2 診	尾股 文(新患)	尾股 文(再来)		富樫 孝文(再来)	
	3 診	富樫 孝文	高橋 優人		尾股 文	
放射線 治療科	1 診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公
	2 診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男
	3 診	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本
*木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科	1 診	富田 美佐緒	富田 美佐緒	富田 美佐緒	高松(1,3,5週) 富田(2,4週)	高松 美砂子
	2 診	渋江 智栄子	高松 美砂子	渋江 智栄子	渋江 智栄子	渋江 智栄子
	術前	高松 美砂子	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇
形成外科		2,4週 13~14時(再来)		坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	午前/午後	本間 英之	中島真人	本間 英之	中島真人	本間 英之
	*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。					
*原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)		午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						

※ 変更となる場合がありますので、事前にご確認ください。(電話: 025-266-5111)

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター (地域連携部門)

TEL: 025-234-0011 FAX: 025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます